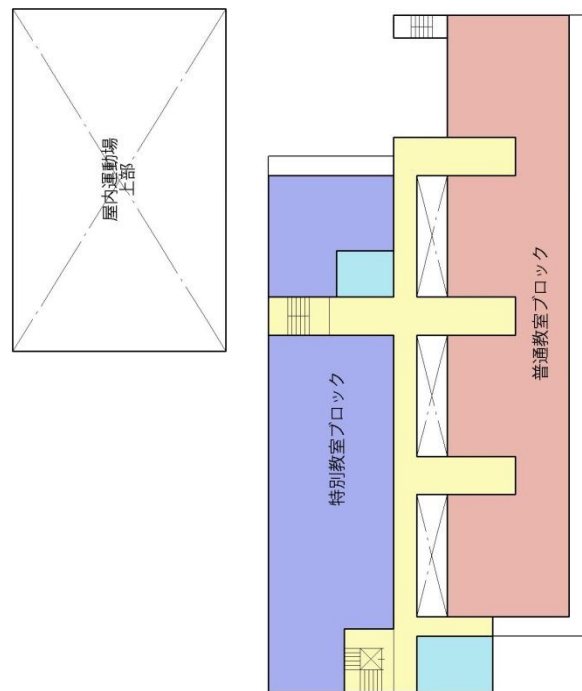
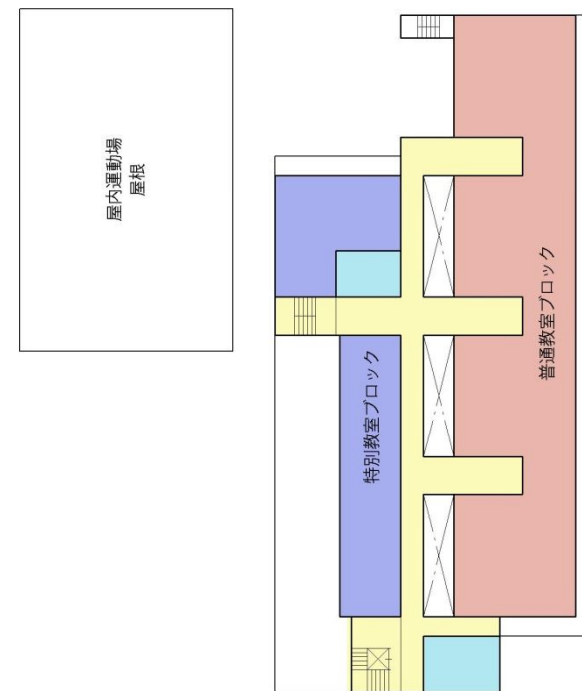
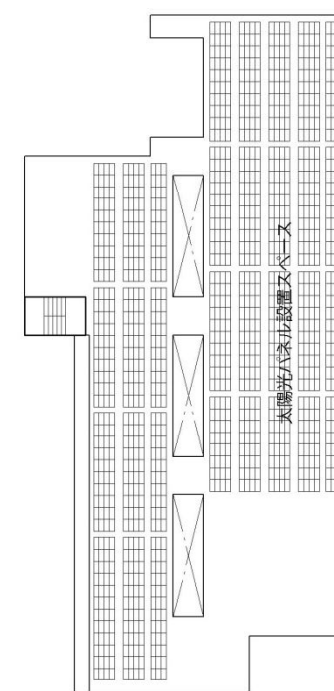




### 3 階平面図



#### 4 階平面図



屋上階平面図



### ○建物配置上の特徴

### ○建物配置上の特徴

- ・ 校舎、屋内運動場を北側に、屋外運動場を南側に配置する。
- ・ 屋外運動場と屋内運動場をピロティでつなぎ、災害時等の連携利用に配慮する。
- ・ 増築用地は、将来的な開放施設や他用途への転用を踏まえて道路側への配置とする。
- ・ プールを敷地南西端の2階に配置し、東側の高層マンションからの見下ろしおよび道路からの覗き込みに配慮する。1階にはプール付帯施設、わくわくプラザ、来校者用駐車場を配置する。

### ○施設構成上の特徴

- ・南向きの普通教室ブロックと北向きの特別教室ブロックを背中合わせにしたI型の校舎を東西軸に配置することで、普通教室から特別教室へのアクセス性に配慮する。
- ・校舎中央部には光庭を配置して多目的スペースおよび廊下で囲む構成とし、自然採光の積極的な活用を図る。
- ・児童動線を校舎の南側、職員・来校者動線及びサービス動線を校舎の北側として分離する。
- ・職員室、校長室、保健室を校門、昇降口、屋外運動場への見通しが効く敷地中央に配置する。
- ・メディアセンターは学校の中央に近い位置に配置し、学習活動への積極的な活用を図る。
- ・理科室2室と多目的ホールを近接配置し理科ゾーンを形成する。理科実験テラスを介した外部アクセスにも配慮する。

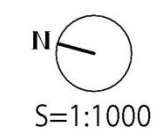
### ○学年ユニットの特徴

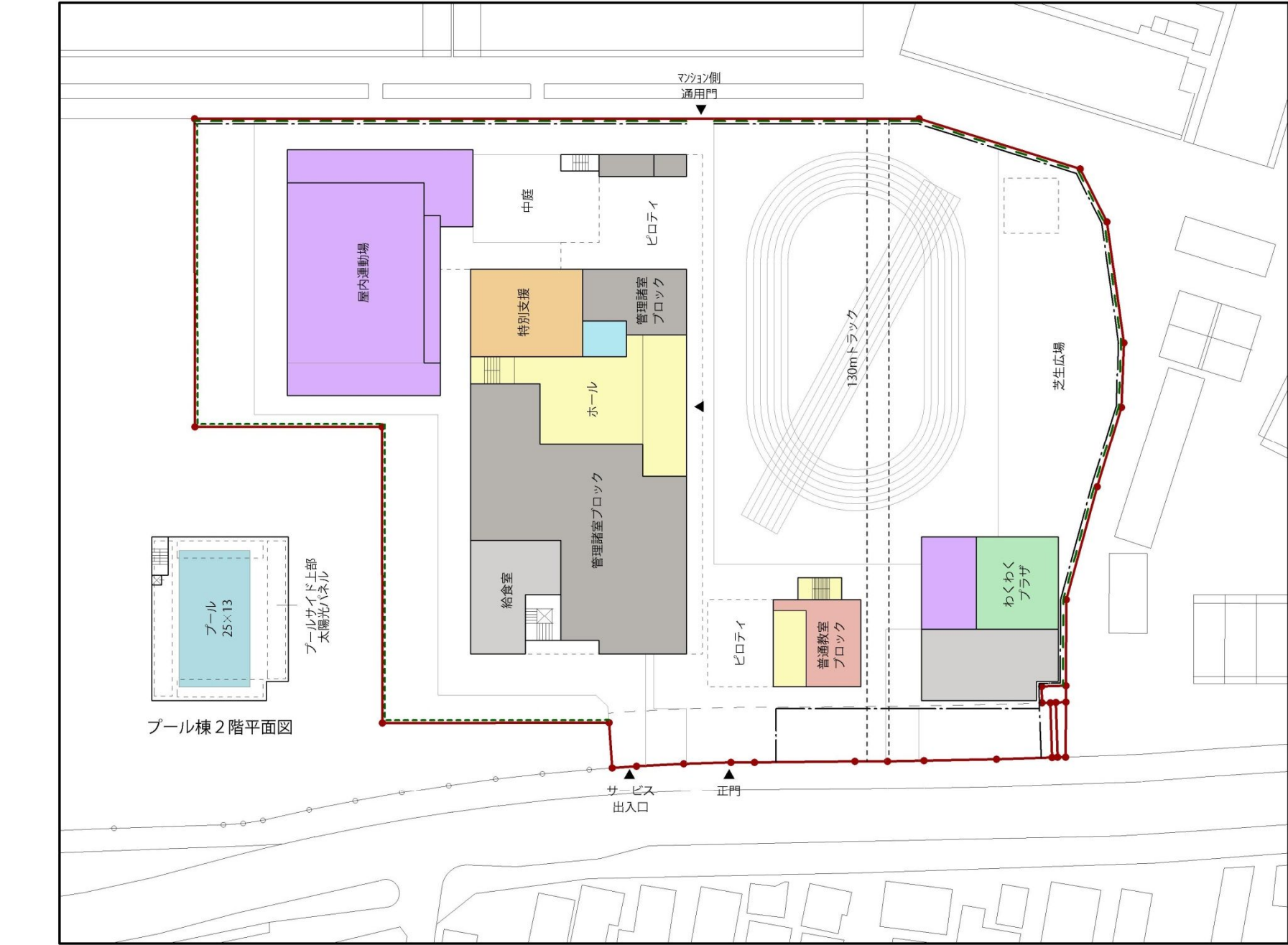
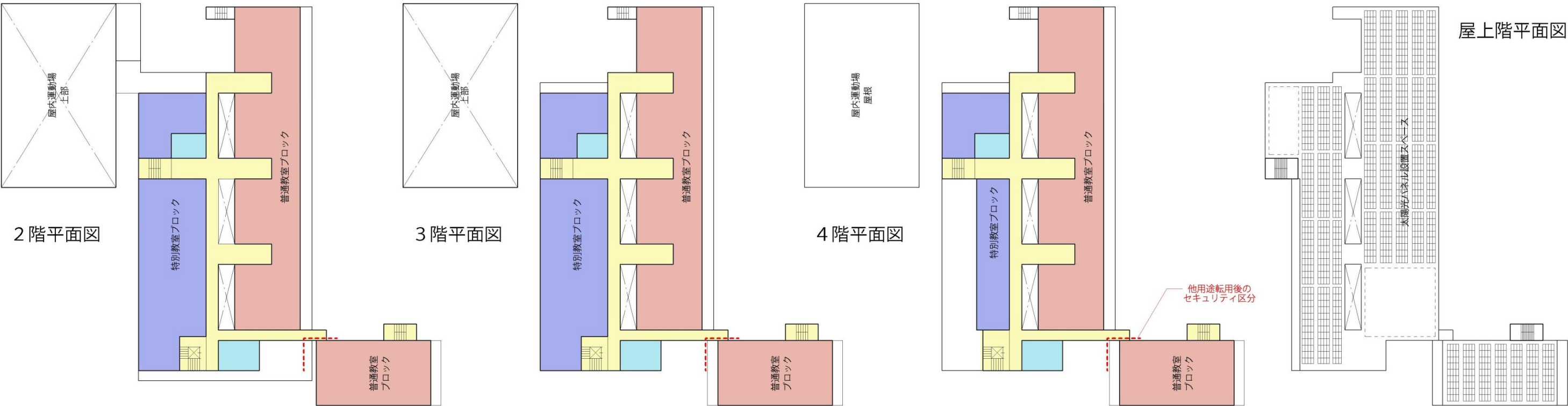
- ・ 2クラスユニットのまとまりを基本単位として並べ、クラス数の変動に対応してフレキシブルに学年構成を組める配置とする。
- ・ 各普通教室ユニットからは、他クラスの多目的スペースを通らずに共用施設へアクセスできる構成とする。
- ・ 2クラスユニット間に小教室および共用のコンコース（幅の広い廊下）を挟み、掲示・展示などによるプレゼンテーションコーナーとしての活用を図る。

○配慮事項

- ・ 特別支援学級の光環境などの居住性に十分配慮する。
- ・ 増築後のエントランス空間のつくり方（１階をピロティにするなど）に配慮し、閉鎖的な雰囲気にならないよう工夫する。
- ・ 増築用地が地役権設定部分と重なる規模となる場合は、切り回す等の検討が必要である。

配置図  
兼  
1階平面図





○普通教室増設の考え方

- ・ 増築前は、生活科室や外国語活動教室を普通教室に転用することも検討する。
- ・ 増築後の普通教室数は、33～35クラスの想定とする（生活科室や外国語活動教室の転用は含めないものとする）。

○増築棟の概要

- ・ 4階建て、1棟
- ・ 1階：昇降口、学習室、廊下、階段
- ・ 2～4階：普通教室、学習室、多目的スペース、廊下、階段、WC

○増築に関わる配慮事項

- ・ 1階は、校門から屋外運動場への見通しを遮ることのないよう、十分なピロティを確保する。
- ・ 工事期間中の児童の安全な登下校動線の確保や、東側のマンション側通用門の使用など。
- ・ 増築用地が地役権設定部分と重なる規模となる場合は、切り回す等の検討が必要となる。

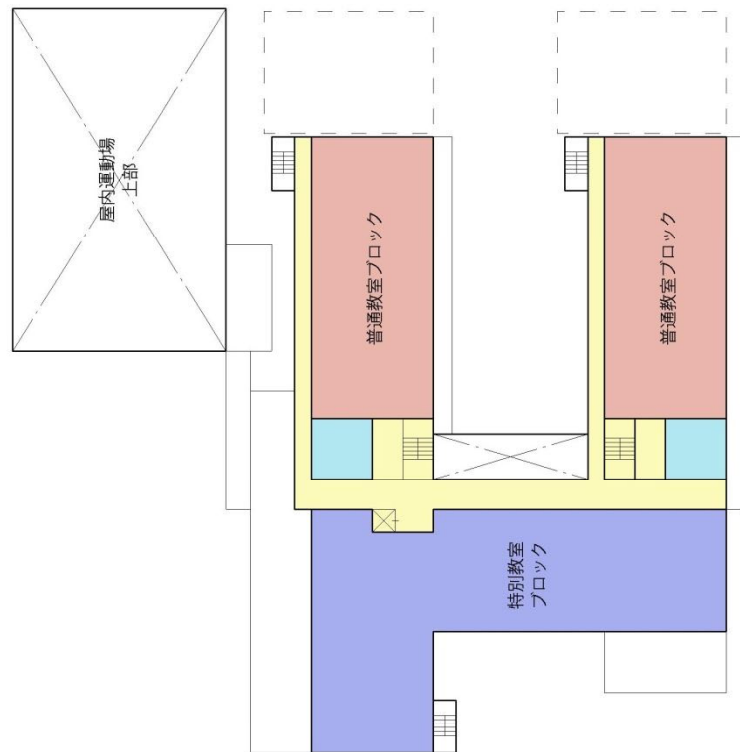
○児童数減少期における増築棟の他用途への転用の可能性の検討

- ・ 増築用地が道路側であるため、学区に捕らわれない公共性の高い用途への転換が可能である。
- ・ 渡り廊下で接続した別棟構成のため、転用後のセキュリティの区分が容易である。

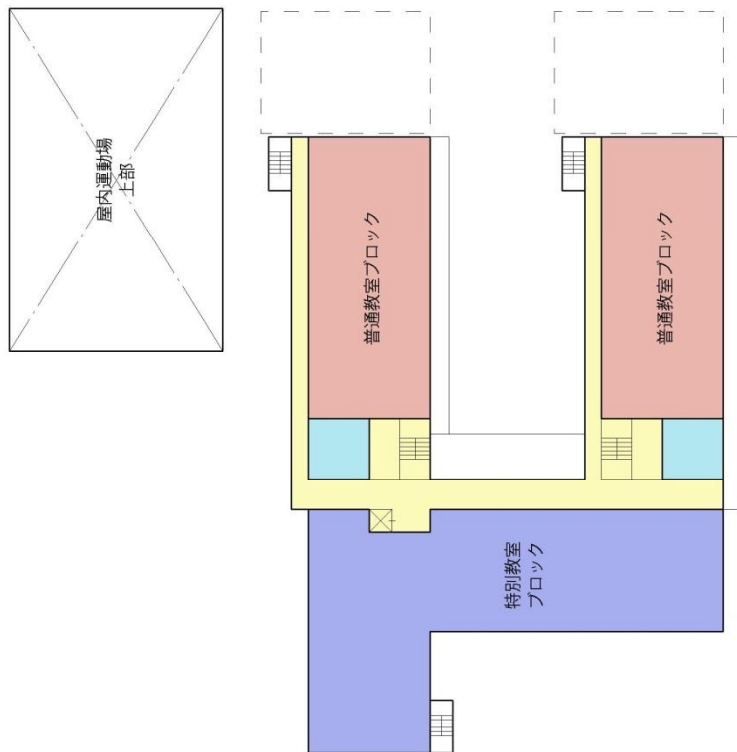
配置図  
兼  
1階平面図

N  
S=1:1000





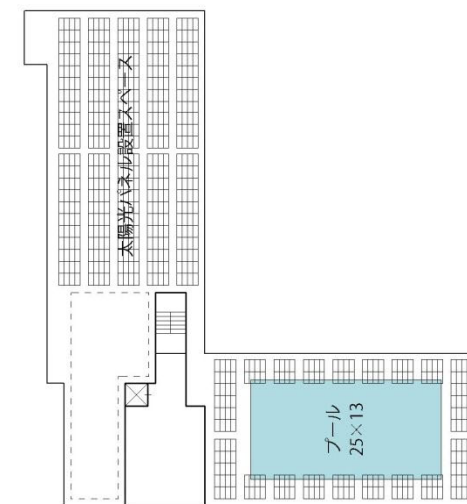
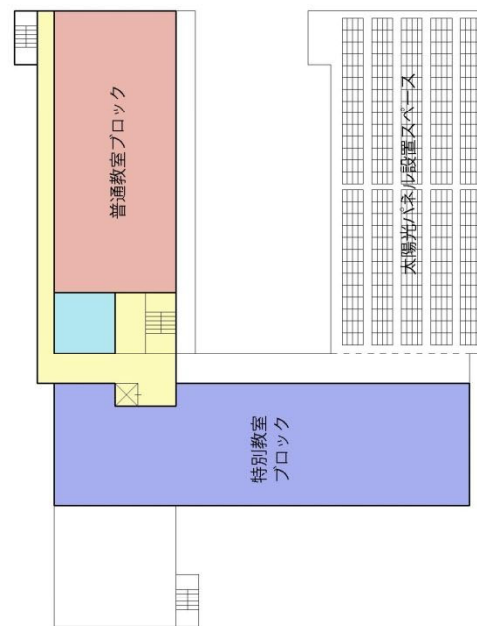
2階平面図



3階平面図



4階平面図



屋上階平面図



## B案の主な特徴

### ○建物配置上の特徴

- ・校舎、屋内運動場を北側に、屋外運動場を南側に配置する。
- ・校舎をコの字配置とし、落ち着いた中庭空間を創出する。
- ・増築用地を敷地東側に配置し、クラス数増加後の学年のまとまりに配慮する。
- ・プールは屋上とし、東南北のマンションからの視線に配慮した配置とする。

### ○施設構成上の特徴

- ・西側前面道路の正面に管理ブロック、特別教室ブロックを配置し、各学年ユニットをそこからぶら下がるように配置したコの字形式の構成とする。
- ・落ち着いた中庭に面して、1年生ユニット及び特別支援学級を配置する。
- ・職員室、校長室、保健室を校門、昇降口、屋外運動場への見通しが効く敷地中央に配置する。
- ・メディアセンターを学校の中央に配置し、学習活動への積極的な活用を図る。
- ・理科室2室と多目的ホールを近接配置し、理科ゾーンを形成する。
- ・ランチルームを最上階の中庭および小倉の街並みを見渡せる位置に配置する。

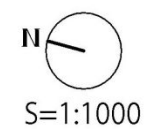
### ○学年ユニットの特徴

- ・2クラスユニットを空間の基本単位とし、クラス数の変動に対しても学年のまとまりが維持できる構成とする。
- ・多目的スペースとは別に廊下を確保し、移動時の音環境に配慮する。
- ・2クラスユニット間に小教室を挟み、多様な学習展開に対応する。

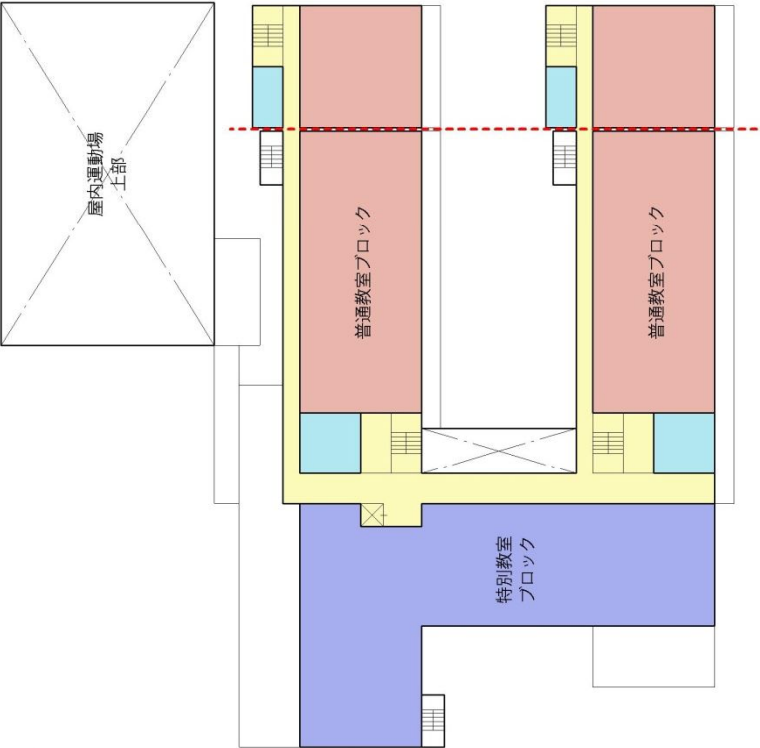
### ○配慮事項

- ・増築棟の将来的な転用や開放利用に配慮する。

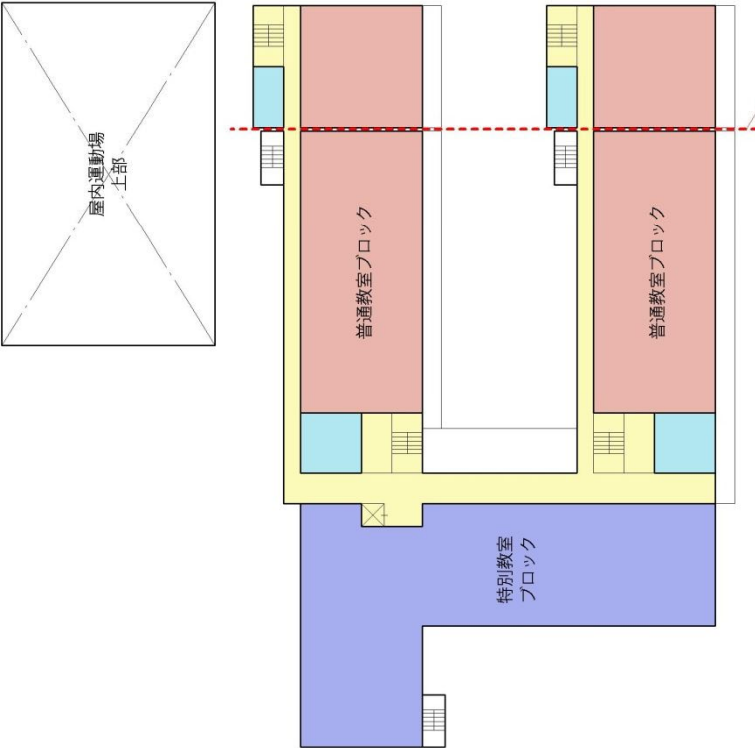
配置図  
兼  
1階平面図



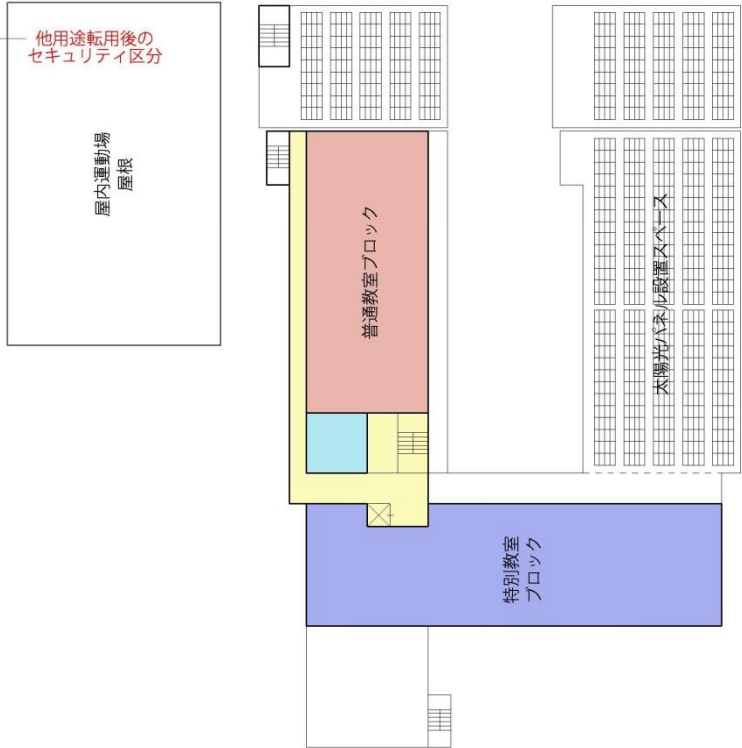
施設構成計画参考案 B案



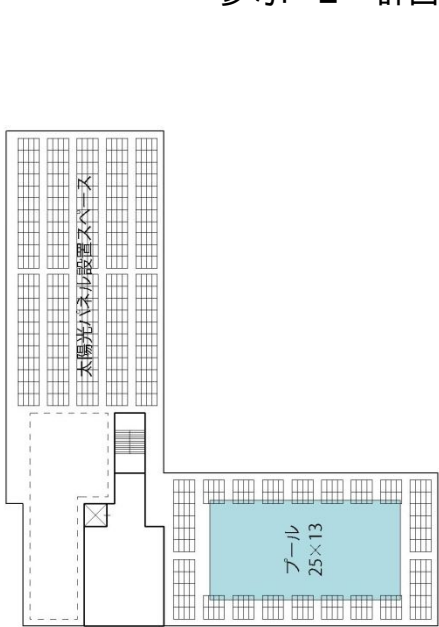
2階平面図



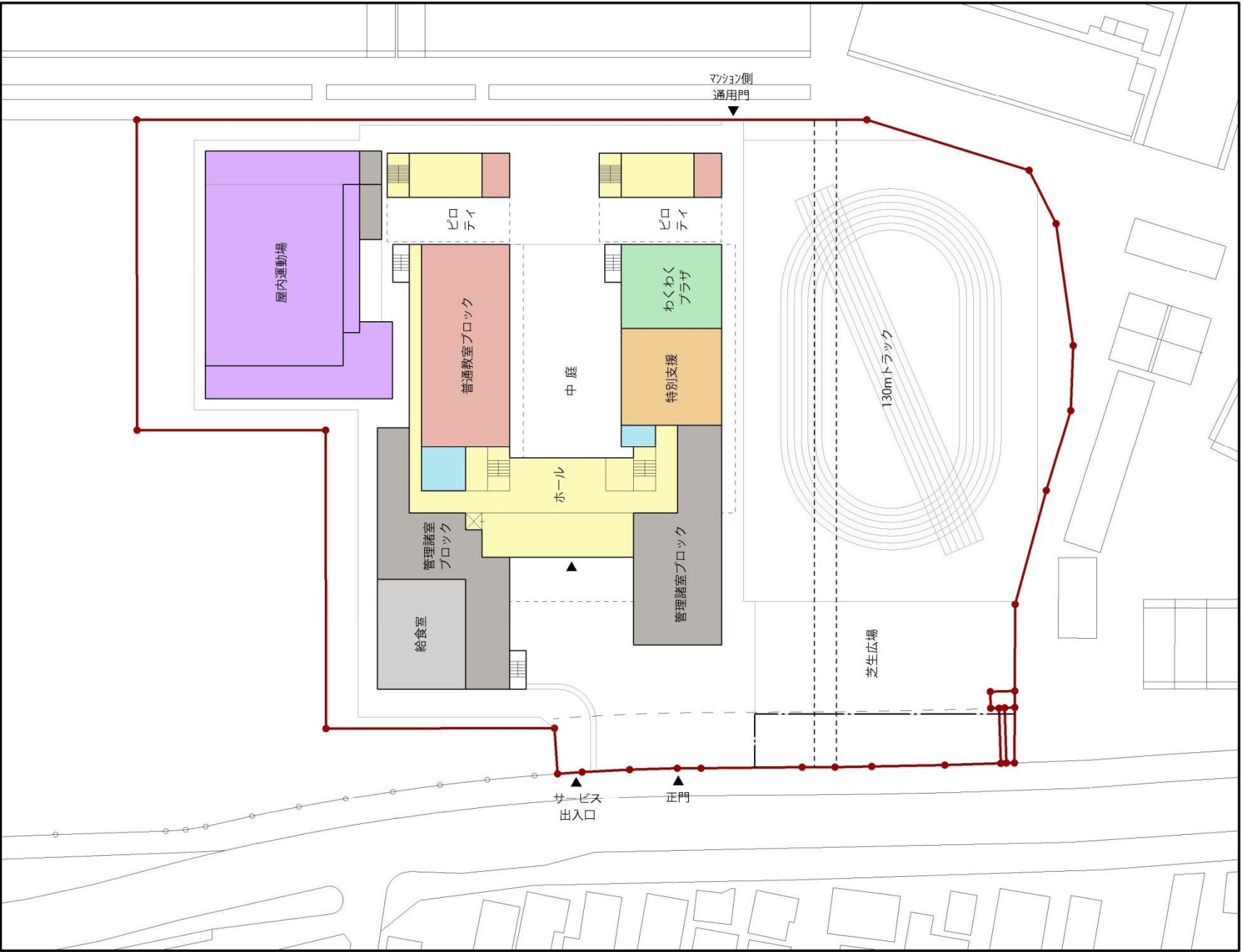
3階平面図



4階平面図



屋上階平面図



配置図  
兼  
1階平面図

N  
S=1:1000

- 普通教室増設の考え方
  - ・増築前の過渡期では、生活科室やランチルームを普通教室に転用する。
  - ・増築後の普通教室数は、36クラスの想定とする（生活科室やランチルームの転用を含める）。
- 増築棟の概要
  - ・3階建て、2棟
  - ・1階（各棟）：昇降口、学習室、廊下、階段
  - ・2～3階（各棟）：普通教室、多目的スペース、廊下、階段、WC
- 増築に関わる配慮事項
  - ・1階は屋外運動場と屋内運動場の屋外アクセス確保のため、ピロティを設ける。
  - ・増築用地が道路から離れた敷地東側奥になるため、工事期間中の児童の安全な学校生活と学習環境の確保に配慮が必要。
  - ・増築用地が地役権設定部分と重なる規模となる場合は、切り回す等の検討が必要となる。
- 児童数減少期における増築棟の他用途への転用の可能性の検討
  - ・増築用地が道路から離れた敷地奥のマンション側であるため、学区住民による利用を中心とした開放施設への転用が計画しやすい。
  - ・2棟に分かれているため、階段やE Vの増設など配慮が必要となる。